徳島大学大学院総合科学教育部博士前期課程臨床心理学専攻

臨床心理学　その１

第１問　発達障がい児・者への支援構造において重要な点について説明しなさい。発達障がい者支援法の内容を踏まえて，養育者支援としてのペアレント・トレーニングなどにも触れながら述べること。

第２問　心理学に関連する以下の 1～20 の語に最も関連が深い用語を，下記の語群（a～z）から１つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入しなさい。

1. Bandura, A.	2. 視聴覚相互作用	3. Wason, P. C.	4. 末梢起源説
5. P300	6. Moreno, J. L.	7. カイ二乗検定	8. Stern, W.
9. ATI（適性処遇交互作用）	10. 意味記憶	11. 一元配置分散分析	12. ブローカ失語
13. 主観的輪郭	14. 心の理論	15. Maslow, A. H.	16. Rosenzweig, S.
17. 選択的注意	18. Erikson, E. H.	19. Portmann, A.	20. Lewin, K.

語群

a. 経験説	b. 誤信念課題	c. TAT	d. 生理的早産
e. REM 睡眠	f. ソシオメトリー	g. 運動性言語野	h. ハノイの塔
i. 欲求階層説	j. 心理社会的危機	k. 相貌失認	l. マガーク効果
m. 顔面フィードバック仮説	n. 主効果	o. 代理強化	p. 期待度数
q. 交互作用	r. カクテルパーティ現象	s. P-F スタディ	t. カニッツァの三角形
u. 葛藤	v. 活性化拡散モデル	w. 個別指導	x. 幅検説
y. 確証バイアス	z. 事象関連電位		

第３問　下記の表は，不安を従属変数とした階層的重回帰分析の結果である。下記の表について，下の問い（次ページ）に答えなさい。なお，データは架空のものである。

Table　不安を従属変数とした階層的重回帰分析

	Step1（強制投入法）		Step2（強制投入法）		Step3（強制投入法）	
	β		β		β	
属性						
性別[*1]	−.18	*	−.21	*	−.15	*
年齢	.18	*	.14	*n.s.*	.12	*n.s.*
行動的要因						
攻撃行動			.13	*n.s.*	.04	*n.s.*
回避行動			−.01	*n.s.*	−.02	*n.s.*
活動性の低下			.24	*	.29	**
不規則な生活			.31	**	.18	*
認知的要因						
自己否定					.30	***
自己肯定					−.23	**
R^2	.05	*n.s.*	.29	***	.43	***
ΔR^2	.05	*n.s.*	.24	***	.14	***

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

[*1]性別おいては，男性＝1，女性＝0として解析を行った．

問1 ΔR^2の値の結果から分かることを説明しなさい。なお，ΔR^2はR^2の増分を示すものとする。

問2 属性のβ値から分かることを説明しなさい。

問3 行動的要因のβ値から分かることを説明しなさい。

問4 認知的要因のβ値から分かることを説明しなさい。

問5 表の階層的重回帰分析から得られる臨床的示唆を論述しなさい。

第4問 心理学に登場する以下の1～20の語に最も関連が深い用語を，下記の語群（a～z）から1つずつ選び，該当する記号を解答欄に記入しなさい。なお，語群の「」は著書名である。

1. Rogers, C. R.	2. Pavlov, I. P.	3. 中井久夫	4. Freud, S.
5. Axline, V. M.	6. Rorshach, H.	7. Binet, A.	8. Schneider, K.
9. Kanner, L.	10. Teasdale, J. D.	11. Kalff, D.	12. Symonds, P. M.
13. 家族療法	14. Baddely, A. D.	15. 外傷後ストレス障害	16. アナログ研究
17. Caplan, G.	18. 精神生理学的測定	19. Beck, A. T.	20. 再犯予測

語群

a. オペラント条件付け	b. インク・ブロット・テスト	c. 転移	d. リスク要因
e. 精神病質	f. 社会的再適応評価尺度	g. 自閉症	h. 認知的再評価
i. 危機介入	j. 再体験/回避/覚醒亢進	k. 作動記憶	l. 心電図
m. 「遊戯療法」	n. システム・アプローチ	o. 非臨床サンプル	p. 精神交互作用
q. 「変容の象徴」	r. レスポンデント条件づけ	s. メタ認知的自覚	t. 風景構成法
u. 箱庭療法	v. 無条件の肯定的配慮	w. 分離－個体化	x. 支配－服従
y. 精神年齢	z. 陽性症状/陰性症状		

第5問 次の文章を読んで，下の問いに答えなさい。

A子は，二人きょうだいの第2子である。A子と兄は幼い頃から運動をするように厳しく育てられた。A子は体操，兄は野球に熱心に取り組んだ。A子は4歳の時に体操教室に入り，優秀な成績を修めた。9歳になった時，A子の母親は週に数日，全国レベルのコーチのところにA子を通わせた。A子はオリンピック出場も夢ではないと思われるようになった。しかし，思春期に入り，A子の細い身体は膨らみ始めた。A子は体重増加が体操選手としてのパフォーマンスに影響するのではないかと心配になり，A子は食事を制限し始めた。ところが，数日間の軽い飢餓の後，A子はコントロールを失い，むちゃ食いに走っていた。ダイエットとむちゃ食いは数ヶ月間続き，その間A子の太ることへの恐れはどんどん膨らんで行った。13歳の頃，A子は自己誘発性嘔吐という解決法を思いついた。そこで，A子は週に3～4回，むちゃ食いと自己誘発性嘔吐をするというパターンにあっという間に陥った。この間，A子はやせ細ることはなかった。A子はこのパターンを両親には内緒にしていたが，遂に両親がA子の異変に気づき，受診に至った（Davison, G. C., Neale, J. M. & Kring, A. M. 2004 Abnormal Psychology, John Wiley & Sons／下山晴彦編訳 2007 テキスト臨床心理学3不安と身体関連障害 誠信書房 P112-144 1部補足）。

問1 クライエントの状態を見立てる上で，一般的に重要と思われる要因を記しなさい。

問2 問1をふまえて，A子の見立て，およびその対応を記しなさい。